

A traditional Japanese woodblock-style illustration of a woman in a kimono, looking down. The kimono has a pattern of stylized flowers and geometric shapes. The background is a solid orange-red color.

维庸之妻

陈龄译

旦

太宰治

著



重庆出版集团
重庆出版社

013065949

维庸之妻

I313.45
737

巨
太宰治
著

陈龄
译



◎
重庆出版社
重慶出版社



北航

C1674245

I313.45
737

图书在版编目 (CIP) 数据

维庸之妻 / (日) 太宰治 著; 陈龄 译. —重庆:

重庆出版社, 2013.6

ISBN 978-7-229-06674-1

I. ①维… II. ①太… ②陈… III. ①短篇小说—小说集—日本—现代 IV. ①I313.45

中国版本图书馆CIP数据核字 (2013) 第127503号

维庸之妻

WEI YONG ZHI QI

[日] 太宰治 著

陈龄 译

出版人: 罗小卫

策 划: 陈华章同人

出版监制: 陈建军

策划编辑: 游晓青

责任编辑: 王春霞

责任印制: 杨 宁

装帧设计: 未 氓

 重庆出版集团 出版
重庆出版社

(重庆长江二路205号)

投稿邮箱: bjhztr@vip.163.com

北京联兴盛业印刷股份有限公司 印刷

重庆出版集团图书发行有限公司 发行

邮购电话: 010-85869375/76/77转810

 重庆出版社天猫旗舰店
cqcbst.tmall.com

全国新华书店经销

开本: 787mm × 1092mm 1/32 印张: 6.375 字数: 100千

2013年7月第1版 2013年7月第1次印刷

定价: 29.80元

如有印装质量问题, 请致电023-68706683

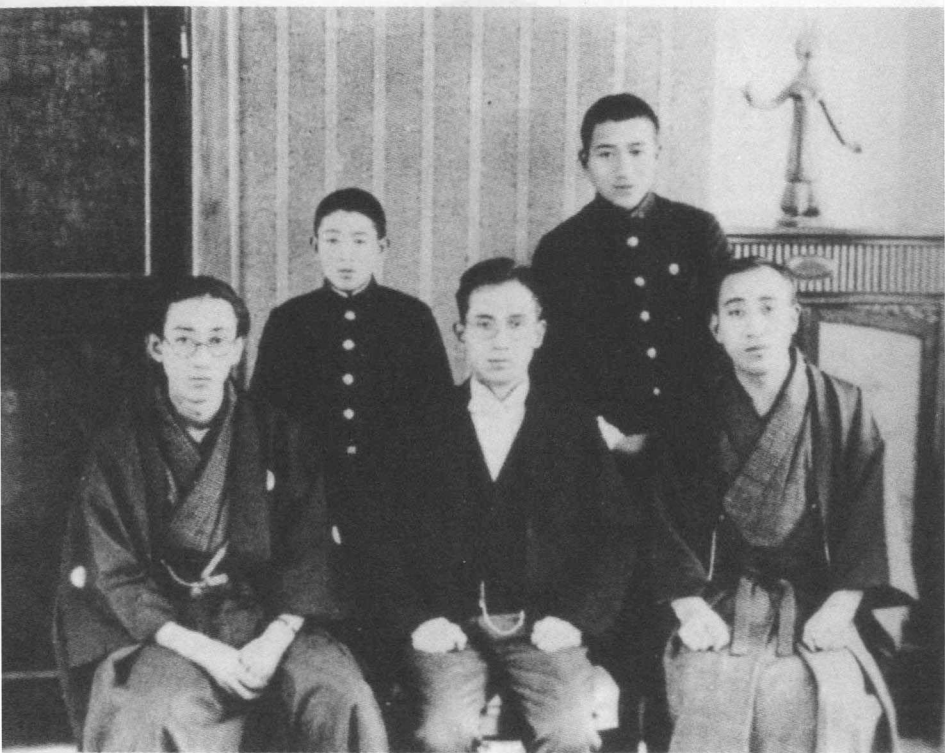
版权所有, 侵权必究



昭和16（1941）年，太宰在位于东京三鹰的住宅附近。



昭和15(1940)年，在东京商大以“近代之病症”为题
演讲的太宰。



津岛家兄弟离家时合影，前排左起：三兄圭治，长兄文治，次兄英治。后排左起：弟弟礼治、太宰。



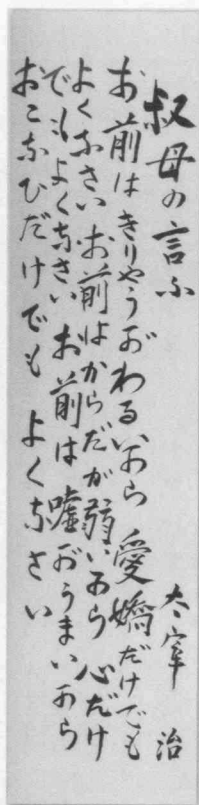
青森中学時代の太宰治。



昭和22（1947）年，太宰治自画像。



太宰治的油画，图中模特为太田静子女士。太宰治的《斜阳》改编自太田静子日记，是书中“和子”的原型。



上图：原文为《古今和歌集》里大江千里的和歌。杨烈先生译为：“见月逐悲秋，心伤何太甚。秋非我独私，月亦非群品。”太宰治选用了该和歌的后半部分。

左图：“婶婶说：‘你长得不漂亮，所以得学会招人喜爱。’……”太宰治《叶》中的一段。

下图：文字为：“也不积蓄在仓里 太宰治”，取自《马太福音》。

62

No.

小さい犠牲者のために、どうしても、さうさ
せていたかなければならぬのです。
ご不快でせうか。ご不快でも、しのんでい
たきます。これが捨てられ、忘れかけられ
た女の唯一の慰めかなしいやからせと思ひし、せ
ひお庫きいれのはど願ひます。
M・C マイクメデアン。
昭和二十二年二月七日。

字アケ

昭和二十二年二月七日

63

《斜阳》手稿

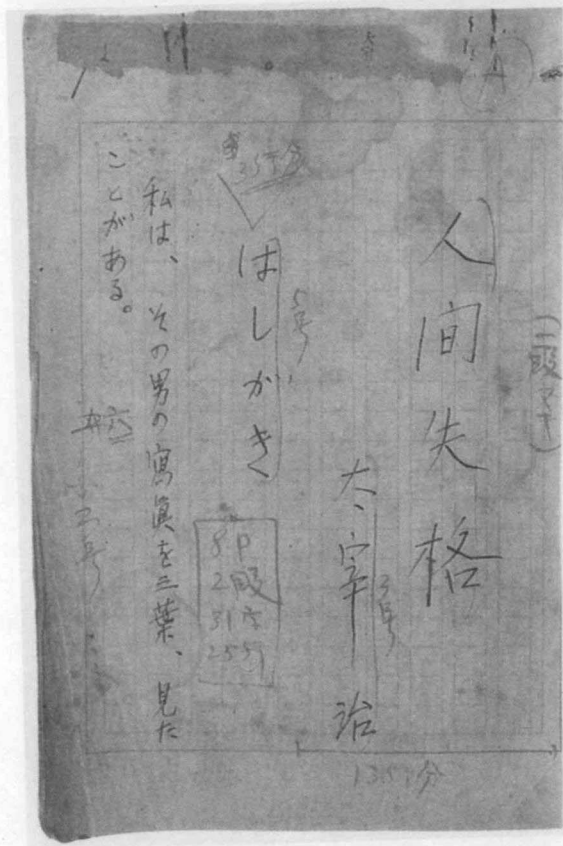
61

No.

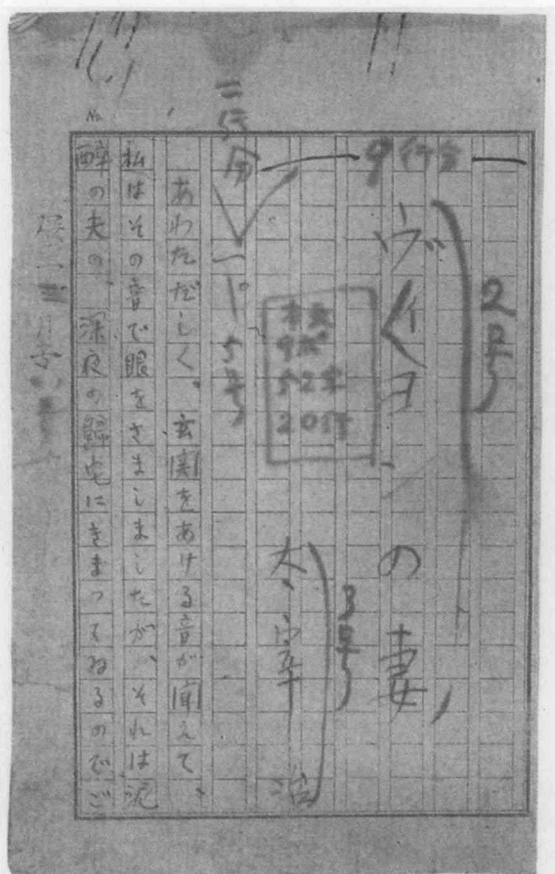
62

うございますから、あなたの奥さまに抱かせ
ていただきたいのです。さうして、その時、
私にかう言はせていただきます。
「これは、直治が、或る女の心とに内緒に生
まされた子ですの。」
なぜ、さうするか、それだけはごなれに
も申し上げられません。いいえ、私自身に
なぜさういふのか、よくわかりません。
でも、私にはどうしてか、さうさせていた
がけいばならないのです。直治といふあの

《斜阳》手稿



《人間失格》手稿



《维庸之妻》手稿

待ち待ちて　ことし咲きけり
桃の花　白と聞きつつ
また　紅ふり
太宰治

“日复一日，盼来今年桃花开，听闻是白色，哪知是红色。” 太宰治自作和歌。

文壇のくちあ
 別式の終り頃から雨が始めて早春
 の雨であるとき
 その歸りく二人の男が相合傘で歩いて

変心
 ー

グ
 ツ
 ド
 ロ
 バ
 イ
 (1)

大宰治の
 吉岡の
 上ニ
 画シ

太宰治遺作《Good Bye》手稿

序

日本作家太宰治，在中国已经不是一个陌生的名字。多年来，他的一些代表作，渐次被几家出版社译介过来，受到广大读者的欢迎。两年前，重庆出版社打算组织一套太宰治作品系列，策划人游晓青女士要我担任主编，我一时犯起了踌躇。我对太宰治太缺乏研究了，尽管我很喜欢他的《斜阳》等名作，但总觉得有些隔膜。不过我想，所谓主编，其架势可舍“大”求“小”，其工作可弃“繁”就“简”，不必事无巨细，一律包办代替。这样一想，也就勉为其难了。言归正传。